

今昔の掛け橋

No. 23

島根大学埋蔵文化財調査研究センター刊行 〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 TEL/FAX : 0852-32-6496
ホームページ : <http://www.shimane-u.ac.jp/info/maibun/index.htm>

企画展示のお知らせ

「風と・雲と・海と ～遺跡が語る水辺の営み」

平成13年 10月1日(月)～10月31日(水)

【会場】島根大学埋蔵文化財調査研究センター・展示室

【開館時間】8:30～17:00

【休館日】土・日曜日(学園祭10/6～9は特別開館)

【観覧料】無料



約5300年前に置き忘れられた2本の櫂とヤス柄

(島根大学構内遺跡・現グラウンド東側・武道場出土、縄文前期)

左から ヤス柄：長さ258.5cm・最大径2.5cm・スギ製

櫂 A：長さ178.0cm・最大径3.5cm・スギ製

櫂 B：長さ172.0cm・最大径3.5cm・スギ製

主な展示内容のご紹介

1. 出雲の景観のあゆみ～水辺にあった島大キャンパス

今から約12000年前頃、寒い氷河期が終わり、地球全体が温暖化していった結果、氷河がとけ、世界的に海面が上昇していきました。その結果、今から、約6000～5000年前頃になると、現在の海岸線よりも、さらに内陸側にまで海が進入していきました（「縄文海進」と呼んでいます。）。現在の宍道湖・中海は、日本海とつながっており、島根半島は半ば本土と切り離れた島のようになっていたのです。そして、ちょうど当時の島根大学キャンパス地点は、水辺に位置していました。



約6300年前頃の中海・宍道湖周辺（縄文前期初頭）

赤点が島大<島根大学汽水域研究センター提供図面をもとに作成>

2. 縄文時代の水辺の営み

上でみた、「縄文海進」の時期、水辺の幸を求めて人間が住み着きます。島大構内遺跡からも、当時の人々が残した土器・石器などが、たくさん見つかっています。こうした遺跡が、宍道湖・中海（当時は内湾）の沿岸に点々と形成されました。

また、島大構内遺跡からは、なかなか残らない6000～5000年前の貴重な木製品が発見されています。



縄文丸木舟推定板材

（島大構内遺跡・現第2体育館出土）

約6000～5000年前のものと考えられます。当時の水辺付近から出土しました。入江等で漁撈や交易に使用されたものと考えられます。この時期の丸木舟は、他に4例しかなく、貴重なものです。

大きさ：長さ604cm・最大幅57cm

材質：スギ製

年代：縄文前期

縄文のカイ

(松江市夫手遺跡出土、縄文前期)

中海北岸の縄文遺跡。樫は4本出土し、年代測定の結果、縄文前期(今から約6000年前)のものと判明。

水かき部分の形が島大構内遺跡出土の樫と似ています。材質も、同じスギ製です。



<写真提供：松江市教育委員会>

3. 弥生～古墳時代の水辺の営み

「縄文海進」が終わると、気候の冷涼化で海面が低下し、現在の宍道湖・中海周辺と同じような地形に近づいていきます。弥生時代は稲作の時代ですが、宍道湖では盛んに漁撈活動も行われていました。島根大学のすぐ隣りにある西川津遺跡でも、当時の漁撈に使用された道具が見つかっています。

結合式釣針

(松江市西川津遺跡出土、弥生時代)

長さ13.4cmの鹿角と長さ9.4cmの猪牙を組み合わせで作った釣針です。先端部には力かりが付いています。こうした釣針は、もともとは縄文時代の北西部九州で用いられていたとみられています。



写真提供：島根県教育委員会



<写真提供：島根県教育委員会>

アワビオコシ状骨角器

(松江市西川津遺跡出土、弥生時代)

下側は、長さ19.6cmの鯨骨製。形状からアワビオコシではないかとみられています。実際、遺跡からは、一緒にアワビ類の貝殻なども出土しています。大学隣りの遺跡から、わざわざ、島根半島の岩場まで出かけていたのでしょう。

4. 海人による壮大な交流

海を舞台に漁撈活動などを行っていた人々は、交易にも重要な役割を果たしました。その行動範囲は、既に縄文時代から予想以上に広いものであったようです。

日本海をルートにした交流は、その後の弥生時代や古墳時代以降も続き、山陰地域の文化の発展にとって、大きな役割を担いました。

西川津式縄文土器

(島大構内遺跡・現第2体育館出土、縄文前期)

類似した模様・形態の土器が、九州や朝鮮半島からも出土しており、日本海を介した交流をうかがうことができます。





<写真提供：松江市教育委員会>

漆液容器

(松江市夫手遺跡出土、縄文前期)

縄文土器の内側に比較的多量の漆が付着していたことから、漆液容器として利用されていたとみられます。

この時期における漆の検出は、山形県押出遺跡・福井県鳥浜貝塚などで数例があるだけで、大変珍しいものです。また、遠く中国浙江省の河姆渡遺跡でも同じような時期のものが発見されています。

漆利用技術の起源は必ずしも明確ではありませんが、海を利用した交流によってその知識を得た可能性が考えられます。

センター刊行物情報

共同変電棟新営工事に伴って、1999（平成11）年に実施した構内遺跡第10次調査の成果をまとめた研究報告書が完成しました。入手されたい方は、センターまでご一報下さい。

『島根大学構内遺跡第10次調査（橋本地区3）』 島根大学埋蔵文化財調査研究報告第6冊

島根大学埋蔵文化財調査研究センター
2000年12月発行

主な収録遺物：縄文土器・石器・弥生土器・平安時代の墨書土器など

埋文センターホームページ好評公開中！

<http://www.shimane-u.ac.jp/info/maibunn/index.htm>



埋文センターでは、インターネットホームページを公開しています。インターネット博物館では、いつでも、どこからでも構内遺跡調査成果を見学することができます。まめに更新していますので、ぜひアクセスしてみてください。

「島根大学ホームページ」から「付属施設・共同利用施設」>「埋蔵文化財調査研究センター」へ進むと見ることができます。

「YAHOO! JAPAN ホーム>社会科学>人類学と考古学>考古学>研究機関」にもリンクされています。

企画展「風と・雲と・海と」の開催、本号埋文ニュース刊行にあたりましては、以下の方々・諸機関に大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。（敬称略）

赤澤 秀則 岡崎 雄二郎 瀬古 諒子 平石 充 間野 大丞
鹿島町教育委員会 島根県教育委員会 松江市教育委員会

